鎌高新聞

発行　神奈川県立鎌倉高等学校　校長室

令和５年３月 23 日　　第 25 号

なぜ大学にいくのか

鎌倉高校の生徒の多くは、大学に進学します。何人かの教員から聞いた話ですが、大学に進学するのは「ネームバリュー」「一定のレベルの大学だから」という答えが多かったと聞きました。また、あるひとりの教員が、１年生にいままで人生のなかで保護者を除いて一番尊敬できる人は誰かを尋ねたら「塾の先生」という回答が多かったそうです。この生徒達の回答を聞き、校長としては心を痛めています。本校の教育のあるべき姿を、自らに問いかけ、自省の機会にもなっています。

本校生徒の殆どが勉強をしなくてはいけないと思っていますが、なぜ勉強するのか。なぜ大学に行くのか。このことについて一人ひとりによって考え方は異なるのでしょうが、筆者なりに自らの経験を踏まえて考えを記してみましょう。

「勉強」は広辞苑によると「①精を出してつとめること　②学問や技術を学ぶこと。さまざまな経験を積んで学ぶこと」等と記されています。これに対して「学習」とは、「①まなぶならうこと　②経験によって新しい知識・技能・態度・行動傾向・認知様式などを習得すること、およびそのための活動　③経験から知識を得る。会得する」と記されています。「勉強」は「勉める」と「強い」が合わさっていますので、何かに対して一生懸命に励むことを意味すると思っています。それに対して「学習」は「学び」と「習う」が合わさっていますので自らまなぶならうことだと思っています。受験勉強はよい学校に受かるために一生懸命に勉強するのですが、地歴科の歴史総合の学習は歴史という知識を習得することになると思います。

本校で勉強及び学習した先には大学があります。文部科学省は「大学とは、学術の中心として深く真理を探求し、専門の学芸を教授研究することを本質とするものであり、・・・」(『新時代における高等教育機関の在り方』より)に記されています。大学に行く意味にはいくつかあります。経験を積む場、新たに人に出会う場、将来の選択肢が広がる場、学歴を取得する場などもありますが、やはり大学に行く意味で一番大切なのは「学問の場」です。そのため大学には多くの学部・学科(コース)があります。講義、実験、フィールドワークをとおして学び、研究していくのです。

小生が大学に進学しようと決めたのは、川崎高校定時制２年の石曽根健教頭(後に県教育委員会の委員長)の世界史を受講してからです。15 歳から昼間は工場労働者、夜は定時制高校生、そして一人暮らしで生活費、学費を稼いでいました。定時制高校に進学しましたが、仕事場に若者がいなく寂しかったという不純な動機で入学しました。授業中、昼間の疲れでよく寝ていました。しかしながら石曽根先生は定時制の生徒だからと

いって手を抜かず、講義を行っていました。定期テストは教科書、ノート、本など持ち込み可でした。テストは大問２問、「ナポレオンが残した遺産について述べなさい」というような問題で、皆１桁や 10 数点しかとれない悲惨な結果でした。小生は先生に対する反骨心で点数を取るために講義を聞き、教科書に記されているゴシックの出来事の「WHY」「HOW」や、歴史的意義を世界史辞典で一つひとつ調べました。すると世界史が面白くなり、それ以外の科目の勉強法も分かっていきました。テスト勉強から学習に繋がっていったのだと思います。それから教員になり、現在は学校経営を研究しています。石曽根先生が教育委員会に異動することになり、ご挨拶に伺ったら「田中は大学にいきなさい！」と、先生に言われました。その２年前、中学３年時、担任から「田中に行ける高校はない」と言われた自分が…教育の意味、意義を感じた時でした。

石曽根先生の影響を受けながら教育、マスコミ、研究者の道を志すようになり、しかしながら生活費と学費を稼ぐため、明治学院大学経済学部経済学科２部（夜間部＊現在は廃部）に進学しました。明治学院大学経済学部に進学したのは、社会（地歴公民）、商業、職業など複数の教員免許状が取得できるという理由でした。しかし明治学院大学に入学したことで、ヘボン博士の教育理念である“Do　For　Others”を考え、人生において実践することを心掛けています。

本校に在学中に学びたいこと、つきたい仕事、やりたいことを見つけてください。そのために大学進学するには、大学のアドミッションポリシーや学風（校風）、歴史、研究施設、教授などを調べ、大学を志望してください。

いままでも鎌高新聞に記しましたが、大学には伝統や校風、歴史があります。例えば英米法なら中央大学、大陸法なら法政大学、マスコミなら早稲田大学、公認会計士なら慶應義塾大学、獨語・獨文化なら獨協大学、大正自由主義運動の成城大学、実践的な経営を学ぶならビジネス・ブレークスルー大学、スーパーコンピュータなら東大、阪大、宇宙物理学なら東北大、名古屋大など、各大学や学部には、それぞれの大学の個性や有名な学部・学科があります。各自でオープンキャンパス・研究室訪問、ホームページ閲覧、先輩や塾・予備校からの情報を収集し、大学の志望を決めてください。ネームバリューで大学に行くのではなく、学びたいもの、取得したい資格、進むべきもののために大学に進学するのです。

小生が開校当時の神奈川総合高校に勤めていた時、１期生で東大に合格できる力のある生徒がいました。当時、小生は進路ガイダンサーを担当していたので、生徒本人に進路を聞く機会がありました。すると本人は「宗教学を学ぶので、いま直ちには大学には行きません」と言っていました。また、有名なパティシエに師事するため就職した者など、開校当初の神奈川総合高校には色んな生徒がいました。本校の卒業生は、日本・世界の各地、各界で活躍しています。そのために、自らの大学、学部・学科を探してください。偏差値やネームバリューだけで決めることのないようにしましょう！